

羽根井小学校の ESD 活動

<活動の概要>

- ・「羽根井再発見ー地域を愛し、ともに生きる羽根井っ子の育成ー」を活動テーマとし、地域に密着した学習を系統的に行うことを柱とし、ESDの実践を通して「人間性豊かな羽根井っ子」の育成を目標とした。
- ・①地域のことから学ぶ活動、②地域の人から学ぶ活動を行った。

・活動の実際

① 地域のことから学ぶ活動

4年生は、「未来をつくるわたしたち」をテーマに、校区である豊橋駅西口エリアについて考える活動を行った。自治会長から話を聞いたり、蒲郡駅を訪れて相違点を見出したりと、体験を通して得た情報を基に、豊橋駅西口の現状を整理した。そして、自分たちの目線で考えた未来の豊橋駅西口のアイデアを、資料にまとめたり、ジオラマを作ったりして、保護者や地域の方、市役所職員などに向けて提案した。これまでは何気なく利用していた豊橋駅の今と未来を、この活動を通して、新たな視点から考えられるようになった。



蒲郡駅近くのポストが気になった4年生

6年生は、「災害に強いまちづくり」をテーマに、地震や大雨といった災害への備えなどについて学んだ。市役所防災危機管理課や地域の方と一緒に校区内を歩き、危険が予想される場所や災害時に役立つものを探した。見つけたことを地図上にまとめたり、わからないことを調べたりする中で、自分たちが知ったことを地域の方にも広く知ってほしいという思いがめばえ、発表会を保護者や地域の方に公開した。参観した方からの質問に堂々と答える姿から、自分たちも地域の安全を守るための一助になっているという誇りを感じた。



完成した防災マップの説明をする6年生

② 地域の人から学ぶ活動

1年生は花ヶ崎保育園児をおもちゃまつりに招待して交流した。グループごとに遊びを考え、必要なものを作り、実際に遊んで、園児が楽しめるように改良や遊び方の工夫を重ねた。交流では、会を仕切るだけでなく、園児が安心して楽しめるように、相手を思いやる言動が随所に見られた。



手作りおもちゃで園児と交流する1年生

2年生は明陽苑利用者との交流を行った。感染症リスクへの配慮から、今年度も手紙での交流となった。夏には、子どもたちが生活科で育てた野菜も手紙に添えて届けたところ、利用者に変え喜ばれた。対面での交流は難しくても、見えない相手を思いやる気持ちを育むことができた。

3年生は「知りたいな 世界のこと」をテーマに、外国語活動の学習から広がって、外国の文化をはじめ、いろいろなことを学んだ。市役所多文化共生・国際課の国際交流員と交流する機会を設け、本やインターネットを使って調べ学習を行った。興味をもったことを追究し、疑問が生じれば仲間と一緒に解決することを通して、自分たちが生活している地域は住みやすく素敵などころだと気づいた。

5年生は「ともに生きる」をテーマに、老若男女、国籍や障害などに関わらず、さまざまな立場の人が幸せに暮らすために大切なことについて考えた。福祉に関わる人から話を聞いたり、貧困の現状を調べたりして、学級や学校、地域の中で、自分たちは何ができるのかを考えるようになった。